

# 岡崎嘉平太記念館



## だより

Vol. 2

2004.12



大和山山頂の「望郷」の碑と杉



留学生による記念植樹



### 望郷の杉(右端)

姿の美しい大和山は、岡崎嘉平太氏にとって故郷の象徴でした。

その大和山の山頂には岡崎氏の揮毫による「望郷」の碑が建てられています。

碑の両側には、岡崎氏が植樹した杉が、大きく育っています。

右端の書は碑の建設に当たって書かれた書の内の一枚です。

(元岡崎会会長 難波京一氏寄贈)

### 望郷の碑の横に立つ岡崎氏(中央上)

昭和五十七年(一九八二)十月十日、大和山山頂で「望郷」の碑の除幕式が行われました。

(元岡崎会会長 難波京一氏寄贈)

### 岡崎嘉平太国際奨学財団留学生(中央下)

岡崎嘉平太氏は、中国をはじめとする、アジア諸国の人づくりへの支援を通じて、民族間の相互理解に、ひいては世界の平和と友好を唱えていました。

岡崎氏の遺産を基金として設立された(財)岡崎嘉平太国際奨学財団の留学生が開館以来毎年、岡崎嘉平太記念館を訪れています。また、地元の野山の会の協力で、大和山山頂に桜の記念植樹をしています。

## 「岡崎嘉平太がめざした世界平和への道を考える会 第三回 講演会」の開催

講師 **何 連涛**(かれんとう) 氏 元国家対外経済貿易部アジア局日本処長、  
現中国石材(株)副社長

畢 斌(ひっびん) 氏 中国駐日本大使館商務部一等書記官

演題 「**信と愛で世界平和を織りなす人** —岡崎嘉平太先生を偲ぶ—」



何 連涛 先生

岡崎嘉平太記念館では、「岡崎嘉平太がめざした 世界平和への道を考える会 第三回講演会」を、10月30日(土)に開催しました。

日中国交回復の礎となった覚書貿易の中国側スタッフとして周恩来総理や岡崎氏の身近につとめ、その後も岡崎氏と親交の深かった何連涛氏・畢斌氏ご夫妻が、飛躍的な

発展を遂げている中国の経済状況や今後の日中共同発展の課題についてなど、専門の立場から話されました。

また、岡崎氏が日中国交断絶の厳しい時も精力的に日中友好へ向けて尽力した様子や、信義を重んじ中国の人と接した温かい人柄などのエピソードなどのお話もあり、約100人の参加者は感銘深く聴きました。



畢 斌 先生

## 参会者の声

私は、岡崎嘉平太がめざした世界平和への道を考える会の講演会に初回から参加しております。回を重ねる度に岡崎先生の人となり、目指された方向がより鮮明に理解出来るようになりました。

今回は特に、日中国交回復の基礎となったLT貿易の中国側の若きスタッフで、岡崎先生と親交の深かった何連涛・畢斌夫妻が、それぞれの立場を踏えながら、先生の人柄や果たされた役割などを流暢な日本語で話され感銘深く聴講しました。

今や中国は米国と並んでわが国の貿易パートナーとして大きな存在となっております。今更ながら岡崎先生の洞察力、行動力のすばらしさに敬意を表するところであり、そのことがよくわかる講演内容であったと思います。

わが町も合併により吉備中央町として新たな出発をいたしました。岡崎先生と周恩来総理のとりもつ縁により、賀陽町の時から友好交流事業を進めてきた、中国淮安市楚州区との関係は継続することを確認しております。

岡崎先生が遺された偉大な功績や思想・信条を広く多くの人々に伝え、そして、実践するためにも、友好交流事業がいかに大切かと実感した講演会でもあったと思います。

加賀郡吉備中央町 町長 重森 計己

- この講演会は、岡崎氏がめざした世界平和への思想を継承し広く人々に提唱するため、岡崎嘉平太記念館が開館して以来、毎年、岡崎氏の生誕の地 吉備中央町(旧賀陽町)で開催しています。詳しい講演の記録は、今後「岡崎嘉平太がめざした世界平和への道を考える会 第三回講演会」にまとめて、頒布します。



## 岡崎嘉平太記念館開館3周年記念企画展

### 「岡崎嘉平太訪中100回の足跡 -LT貿易を中心に-」開催

研究室において9月22日(水)から11月29日(月)まで、開館3周年記念企画展「岡崎嘉平太訪中100回の足跡 -LT貿易を中心に-」を開催しました。



昭和39年度分LT貿易取決めに署名

この度の企画展は、岡崎氏が構想し、国交正常化の礎を築いた、日中覚書貿易に焦点をあて、戦後100回の訪中を重ね日中友好に貢献をした旅の足跡をたどりました。



企画展会場の様子



LT貿易関係のスクラップ帳

戦後の初訪中の時の写真や、中国と交わされた貿易内容の取り決め事項を示した資料、LT貿易の資料が収められたスクラップ帳などと共に、日中国交正常化を果たした直後に、周恩来総理が、LT貿易の功績をたたえて、貿易関係者とその家族を招待した中国旅行の様子など、初公開の写真や遺品を中心に約60点を展示しました。



日中双方の事務所の職員達と



まめ知識

LT貿易は、昭和37年11月から昭和48年末まで、日本と中国の間で行われた貿易のことです。単に貿易に限られただけでなく、戦後、正式な国交のなかった日中両国が、国交回復に向け、あらゆる問題を話し合う場の窓口として、重要な役割を担っていました。

この貿易は開始当時の両国の代表者の名前の頭文字、中国側 廖承志(りょうしょうし)氏の「L」と日本側 高碓達之助(たかさきたつのすけ)氏の「T」を取って、LT貿易と呼ばれていました。

## 展示品紹介

岡崎嘉平太氏の自宅(東京大田区)の門柱に埋め込まれていた自筆の備前焼陶板です。

岡崎嘉平太氏の信条「信はたていと愛はよこ糸 織り成せ 人の世を美しく」の言葉とともに「於国分寺 岡崎嘉生」と刻まれています。

これは、岡山県総社市の備中国分寺で書かれました。また、「岡崎嘉生」の「嘉生」とは、岡崎氏が書や手紙を書いた時に、よく用いた号です。

ご長男の岡崎彬氏が、平成16年夏、

自宅を取り壊す際に門柱よりはずして額装し、寄贈していただきました。現在、記念館に展示しています。





おかざきかへいた

岡崎嘉平太さんものしりトピックス



かへいた あくしゅ か  
 嘉平太さんと握手を交わされている  
 しゅうおんらいふじん どうえいちょう はいご うつ  
 周恩来夫人（鄧穎超さん）の背後に写っ  
 だんせい ちゅうもく  
 たメガネをかけた男性にご注目ください。  
 せんじつ きねんかん おこな こうえんかい こうし まね かれんどう  
 先日、記念館で行った講演会の講師にお招きした何連涛  
 わか ころ じしん さんかんちゅう はっけん  
 さんが、若い頃のご自身だと 参観中に発見されました。



展示室をご覧になる  
 何連涛氏・畢斌氏

おく ひつびん べつ しゅうごうしゃしん うつ ふたり おどろ たいへんよろこ  
 また、奥さんの畢斌さんも別の集合写真に写っており、お二人して驚き、大変喜  
 こうえん か ふさい かへいた せかい へいわ  
 ばれました。講演で何さんご夫妻は、嘉平太さんが「世界が平和になるためには  
 わかも の こうりゅう たがい たいせつ かんが こと はな  
 若者が交流し互をわかりあうことが大切」と考えていた事を話されました。

きねんかん しごと  
 記念館の仕事



かへいた りっぱ おこな かんがえ かつ おお  
 嘉平太さんの立派な行いや考え方を多く  
 ひと し おかざきかへいた  
 の人に知ってもらうことが、岡崎嘉平太  
 きねんかん もっと たいせつ しごと  
 記念館の最も大切な仕事のひとつです。  
 ひだり しゃしん がつ きゅうかようちよう がっこう あたら  
 左の写真は、8月に旧賀陽町の学校に新し  
 ふにん せんせいがた かへいた  
 く赴任された先生方が、嘉平太さんについ

べんきょう こ とき ようす ひ みつおかかんちよう はなし  
 いて、勉強をしに来られた時の様子です。この日は光岡館長が話をしました。  
 がっこう せんせい しょういん はな  
 みなさんの学校の先生もおられるかな？私たち職員は、みなさんとお話しできるの  
 たの とも いっしょ きねんかん りよう  
 を楽しみにしています。お友だちと一緒に記念館を利用してください。

平成16年8月23日 岡崎嘉平太記念館が開館して3周年を迎えました。

開館以来の入館者数も9月20日(月)に3万人を突破し、記念のお祝いをしました。  
 3万人目は、岡山市在住の神村仁志さん・真智子さん夫妻と、遙斗くん(1才)。  
 記念品として花束や岡崎氏の信条「信はたていと 愛はよこ糸 織り成せ人の世を  
 美しく」の色紙などをお贈りしました。  
 初めて記念館を訪れた神村さんは「これを機に岡崎さんのことを勉強  
 したい」と感想を述べられました。



編集・発行：岡崎嘉平太記念館

〒716-1241 加賀郡吉備中央町吉川4860-6きびプラザ内

TEL 0866-56-9033 FAX 0866-56-9066

ホームページ <http://www.kibicity.ne.jp/users/okazaki/>

Eメール [okmh@kibicity.ne.jp](mailto:okmh@kibicity.ne.jp)